

令和6年度【児童発達支援】 自己評価アンケートまとめ

職員による自己評価

専用に作られた建物のためバリアフリーになっており、広さも十分にある。一人ひとりの児童に対応可能な職員配置はできているが、年齢が上がっている放デイの児童との空間の割り振りに難しさが生じており、安全面に十分配慮する必要がある。放デイの児童との豊かなかわりもできている。多機能型の施設であり、放デイの人数の割合が多くなりすぎているため、新規に受け入れる児童は児童発達支援のみとしている。概ね支援に満足頂いている。虐待防止研修や事業所で必要な事案は全員の職員が研修を行い、情報共有している。非常勤職員を含む全員の職員で会議を行うことができた。しかしながら非常勤職員に児童の支援に必要な情報を届ける努力を続ける必要がある。児童に幅広い活動を提供するため、書面にてご家庭のご意向を伺い、実費負担での余暇活動も取り入れている。

保護者による評価

7名の回答をいただいた。過ごしやすい空間ではあるが、特性に応じての配慮がされているのか分からないというご意見があった。活動の様子についてスマートフォンで確認出来るようにしたらどうかというご意見もいただいた。いろいろな場所に連れて行ってもらえる、子どもが笑顔で通っている、偏食が改善できた等、概ね高評価をいただいた。



事業所内での分析

多機能型施設であるが、児童発達支援の児童の割合が小さく、児童発達支援のご利用者さまを増やしていく必要がある。職員体制なども含め保護者から見えにくい部分についてご理解を得られるための努力が必要である。事業所の対応等のご意見について真摯に受け止め、その時にできる最善を考えていきたい。非常勤職員についても情報共有や支援のポイントの打ち合わせをする時間確保の努力が必要である。

事業所の強み

様々な特性を持った児童が過ごすために作った施設なので、過ごしやすい環境である。法人で広場を保有しており、外で体を動かしながら、のびのびと過ごすことができる。動物と触れ合うこともできる。一人ひとりの児童に合った生活面、コミュニケーション力、遊びの支援を行っている。職員の勤続年数が長くなり、児童の状況に合わせた適切な支援を行う協力体制が築きやすく、風通しの良い職場環境である。

事業所の改善点

多機能型施設であり、児童発達支援と放課後等デイサービスのそれぞれの計画、特性や年齢に応じた課題プログラムの計画が幅広く、難しさがある。特に学校の長期休みのプログラム計画では、児童発達支援と放課後等デイサービスのご利用時間が異なり、打ち合わせや活動プログラム作りの時間確保に困難が生じている。

事業所の改善への取り組み

保護者の皆様へ、おたよりや面談、ホームページ、日々のコミュニケーションなどを通し、業務に関する情報を丁寧に発信していく。保護者との考え方の行き違いや必要なことのお伝えが十分にできなかったときは、しっかりと取り組んでいく。緊急時対応、防犯、感染症対応のマニュアルを全職員にも周知・説明を図っていく。風通しの良い職場の風土を保ち、児童に温かい支援を提供していく。児童発達支援の児童の割合を増やしていく。